

## TAIWAN PHOTO 2018 (海外のフェアへの参加)

概要：

TAIWAN PHOTO 2018は、今年で8回目となる台湾最大のフォトフェアです。gallery 176では、昨年2017年、初めて運営メンバー4名が参加しました。今年2018年は、gallery 176で展示した作家等の外部作家3名と運営メンバー3名の合計6名で参加します。

**\*TAIWAN PHOTO 2018参加のため、10月1日(月)～11日(木)はgallery 176は休廊となります。**

出展作家：

外部作家：吉岡さとる、榎本八千代、濱崎崇

gallery 176 運営メンバー：友長勇介、松原豊、西川善康

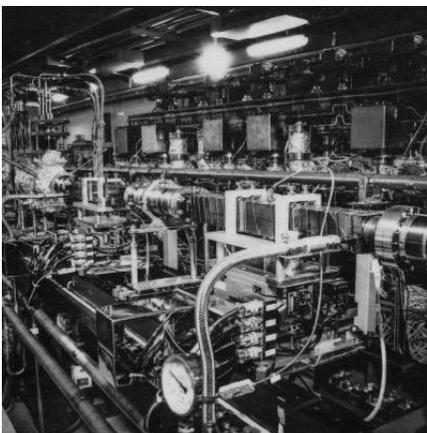
開催日：2018年10月4日(木)～10月7日(日)

開催時間：11:00～21:00 (最終日10月7日(日)は19:00まで) \*10月5日(金) 18:00～21:00 VIP PARTY

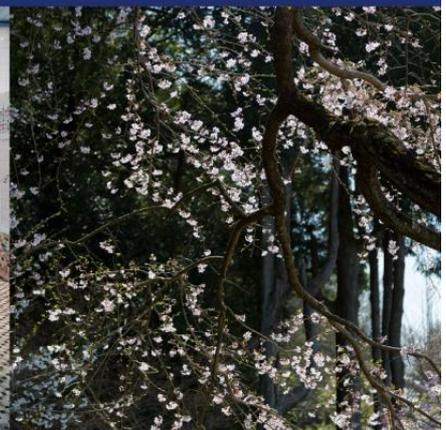
会場：新光三越 | 台北信義新天地 A9 9F 宴會展覽館 (催事場)

台北市信義区松寿路9号, 台湾

No. 9, Songshou Road, Xinyi District, Taipei City, TAIWAN



## TAIWAN PHOTO 2018

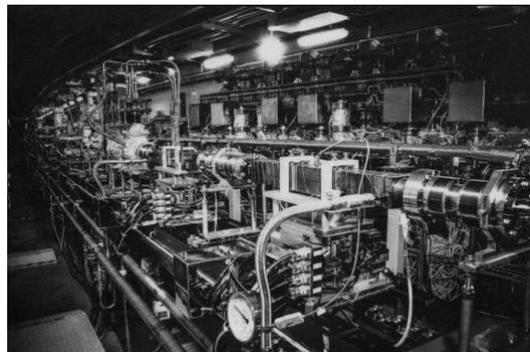


## 出展作家・作品紹介

### 吉岡さとる「synchrotron sp8」

「何故、我々は存在するのか？」をテーマに世界各地の高エネルギー物理学研究所の施設内部を撮影、写真作品として発表、研究施設を撮影するカメラマンの第一人者として世界中の研究者、施設関係者から絶大な信頼を得る。

今回、大型放射光施設の内部を撮影したイメージを、土佐白金紙を支持体にしたプラチナパラジウムプリント作品を発表する。



### 榎本八千代「20050810」

この作品の写真は、4歳の男の子の使い古された靴と服とおもちゃとそしてその子供が住んでいたマンションの周りの風景が写っているだけです。本来ならその使いふるされたモノ達は成長ともに役目を終えて、廃棄されるべき予定のものでした。

しかし、それらのモノたちは捨てられることはなく、そして誰かに譲られることもなく、ずっと戸棚の奥へ長い間、隠されておりました。

何故ならそれは、その男の子の母親が、彼が亡くなったと言う事実をどうしても認められなかったからです。

しかし、それらのモノ達は11年もの間、存在はずっと忘れられていなかったものの一度も外へ出されることはありませんでした。

彼女はその事実に対して、正面から向かいあう勇気がありませんでした。自分の子供の死というのは自分の残りの人生の死でもあるからです。

2016年の春、その子の母親であり、作者でもある榎本は、しまっていた箱から一つ一つ丁寧に取り出し、カメラの前に置き、写真を撮り始めました。

それは、写真というツールを利用することにより、自らの「喪失」の記憶について向かいあう事が出来ると考えたからです。



### 濱崎崇「あと乃あと」

神戸市の北側には、六甲山系の低い峰が連なっている。そこは、古くから富裕層の避暑地や市民の山歩きの場所として親しまれてきた。しかし、登山道から少し脇道にそれると、無人化した別荘や家屋などが目についた。

私が惹かれたのは、玄関や入口を臨んだときにわたしを包み込んだその気配だった。かつて生の営みが行われていたその場所は、主のいない今では、彼岸を此岸の境目のようにも思えてきた。そこに居た人々の記憶が投影された、声や息づかいまでもが立ち上がってくるようだった。

私が取り組んだのは、それらを美しく気高い存在としてのポートレートを撮ることだった。



### 友長勇介「猫」

野良猫の写真です。

精悍な顔つき、力強い眼差しに惹かれ撮影しています。



松原豊「Local Local public bath 地方銭湯」／「恐山」「Local public bath（地方銭湯）」

日本には独特の庶民文化「銭湯=公衆浴場」という場所が存在しています。私は在住地三重県（伊勢神宮や鈴鹿サーキットのあるところ）に在る銭湯の記録撮影を続けています。施設と経営者の高齢化などで減少の一途をたどっている銭湯ですが、そこは男風呂、女風呂で壁面の絵柄が違っていることも多くデザインとしても面白く楽しい。また古い銭湯には使い続けられた場所特有の（例えば壁面に入ったひび割れたタイルのように）時間経過や生活感を感じさせてくれる部分が多く残っていて施設固有の歴史が刻み込まれています。まもなく消え去ろうとしている日本庶民生活文化「銭湯」の姿を細密描写で記録した写真でお届けします。是非コレクションの一つに加えていただければと思います。

撮影 4×5inch 大型カメラ、アナログフィルム使用

「恐山」

「恐山」は日本の本州北東部、青森県下北半島に位置する日本三大霊場のひとつである。そこは活火山地帯でもあり周辺は硫黄の匂いが立ちこめていて温泉も湧いている。凸凹したカルデラ地形の火山地帯は島国日本の不思議な場所。そこは霊山と呼ばれ死と生の境界線が存在するようにも感じる。島国「台湾」にもある活火山地帯の風景を是非ご覧下さい。

撮影 1999年

## 西川善康「植物 plants」

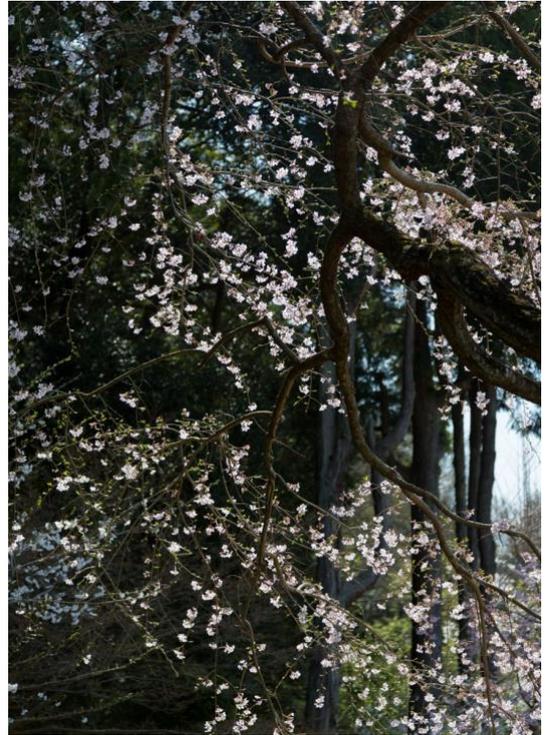
私たちは、日々生活する中で、いろいろな植物に出会います。

— 部屋に飾っているお花／部屋の植物 plants in the room

— 出かける途中で見かける生垣や街路樹、道端の雑草／街の植物 plants in the city

— ふと訪れた静かな日本庭園の樹木や苔／庭の植物 plants in the garden

この作品では、これらの植物の立ち振る舞いを、静かに切り取っています。



\*各出展作家の略歴は、以下の web ページでご確認いただけます。

<https://176.photos/activities/taiwan-photo-2018/>

## お問い合わせ先

「TAIWAN PHOTO 2018」に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。また、現地での取材の対応、フェアに関するレポート等の作成も承りますので、お気軽にお問い合わせください。

gallery 176 (ギャラリー イナロク)

担当：西川善康

tel : 050-7119-9176

e-mail : info@176.photos